

## 今月の豆知識コーナー



## マイコプラズマ肺炎の症状・治療・予防法



マイコプラズマ肺炎とは「マイコプラズマ P」という微生物で、細菌にもウイルスにもない性質を持っています。



## マイコプラズマ肺炎の症状

主に気道に感染します。感染すると上気道炎、咽頭炎、気管支炎、肺炎になります。主な症状は以下のとおりです。

- ・ノドの痛み
- ・鼻水、鼻づまり
- ・咳、痰のからむ咳
- ・呼吸がしにくい
- ・37度以上の高熱

学童期や高齢になると重篤な肺炎に注意が必要となります。



## マイコプラズマ肺炎の診断

培養による病原体検出で陽性と診断されるまで8日以上要し、健康保険を使用できませんが、遺伝子学的方法（PCR法）などで確定診断をします。

## マイコプラズマ肺炎の治療

細菌感染症治療の第一選択薬のペニシリン系抗生剤、セフェム系抗生剤は無効であるため「マクロライド系抗生剤」「ニューキノロン系抗生剤」「テトラサイクリン系抗生剤」での治療効果が有効です。

## マイコプラズマ肺炎の予防法

マイコプラズマに対する予防接種はありません。抗生剤の予防投薬も一般には行われません。感染を広げないためのポイントは「咳エチケット」「手洗い」です。

以上のようにマイコプラズマ肺炎は「流行性感冒」「インフルエンザ感染」とよく似ていますが、重篤化させないよう「咳症状、痰のからみ」が長期化する前に、日常から注意をしましょう。

今年の冬も寒さが厳しくなりそうです。  
うがい、手洗いをしっかりとしましょう。



文責 薬剤 玉腰直樹  
濱田浩彰